

消防新時代

第15方面隊 第81分団 桜井校区 班長 緒方誠

深夜の夜空を真っ赤に染める炎。地域を守るために奮闘する消防団員たちの姿。以前、テレビ局の報道の現場で働いていた私が、火災現場で目の当たりにした光景です。「じゃまだ！危なかるが！」テレビカメラを持った私たちを一喝する消防団員の眼差しは真剣そのものでした。その時からかもしれません。自分たちの地域を守ることの大事さを考えるようになったのは。

その後、実家の農業を継ぐために地元熊本に戻ると、すぐに消防団に入団しました。結婚し、子供も生まれ、地域を守っていくための防災意識がいやが上にも高まってきました。

しかし、入団して間もないうちに、困難な問題が見えてきました。地元の消防団員が減少し、存続の危機に陥っているのです。アパートに住む住民が増えたことや、団員の高齢化などが原因だと思われます。少人数なので、いつも同じメンバーでポンプの点検をしたり、操法大会に何度も出場したりと、団員には疲労が蓄積してきています。

どうすればいいのでしょうか。昨年、令和という新しい時代を迎えました。これを機に、危機意識を持って、どんどん新しい発想を取り入れていく必要があると思います。これからは消防署や自治会と足並みを揃え、新入団員の確保に協力し合うのはもちろんこと、組織の改編も視野に入れてみてはどうでしょうか。例えば、今まで小さな地域単位の部であったものを、これからはより広い小学校単位で編成してみる。新時代の消防団を目指して、組織をバージョンアップし続けていくことが必要になってくると思います。

10月に首都圏を直撃したスーパー台風19号。これまでの常識を超えるような広い範囲で猛威を振るい、大きな爪痕を残しました。温暖化による海水温の上昇によって、今後、同レベルの台風がたびたび襲来すると指摘する専門家もいます。この新時代の災害から、いったいどう被害を防げばいいのでしょうか。

たしかに地球の気候変動の問題は私たちには大きすぎるかもしれません。しかし、自分たちの地域は自分たちで守る。それが一番うまくできるのは私たち消防団なのです。例えば、ハザードマップの周知徹底です。学校や自治会、民生委員などに年に一度配布したり、SNSを活用して、情報を広く共有することで、地域の人々の防災意識を高めることができるのではないのでしょうか。特に重要なのは、お年寄りなどの情報弱者に、いかに情報を受け取ってもらうかだと思います。ただ一方的に発信して終わるのではなく、最後の一人にまで情報をしっかり手渡しすること。テレビの報道局にいた時はできなかったことが、消防団ではできるのです。私達の分団では、一人暮らしの老人宅の情報を自治会や民生委員と共有していて、震度5以上の地震や台風接近情報が流れた場合、消防団が一軒一軒声をかけて回っています。老人から子供まで一人一人が情報を共有しあうことでより強力な自治防災組織が成り立つのではないのでしょうか。

先日、自治会、老人会、育成会などと1つになって、防災訓練を行いました。消防職員の方々も大きなポンプ車で駆けつけてくださり、子供達からは大歓声。充実した訓練ができました。そう、消防署と地域住民をつなぐ存在として、地域の防災の中心に消防団がいるのです。

これから、大災害がたびたび起こる時代がくるかもしれません。いや、来るでしょう。しかし私たちも消防団に新時代を到来させましょう。私たちの地域は私たちが守らなければならないのだから。